

# 教育研究業績書

2017年05月29日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：秋山 正子

研究分野	研究内容のキーワード
在宅看護、訪問看護、ターミナルケア	在宅看護、訪問看護、ターミナルケア、がん看護、アロマセラピー
学位	最終学歴
修士（保健学）	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 『住み慣れた家庭で最期まで～在宅看護を学ぶ』講師	2016年2月18日	日本セカンドライフ協会(JASS)において、『在宅看護』をテーマに120分の講演を行なった。
2. 『ケアスタッフのためのアロマセラピー』講師	2013年12月20日、2014年11月14日	西宮市社会福祉事業団内の職員研修として、90分の講義・実習を主催した。全職員の希望者を対象に、1年目はアロマスプレー作り、2年目はハンドマッサージの実習を行った。
3. 『女性のからだセミナー』講師	2008年6月13日	大阪ガス泉北ディリバにおいて、90分の講義と実習を行った。
4. セラピストのためのカラーセラピー練習会主催	2007年4月から2007年12月	セラピストのためのカラーセラピー練習会を計6回主催した。
5. NPO法人におけるアロマセラピー研究の講習実施	2007年2月から2010年4月	NPO法人においてアロマセラピー研究を促進するための研究部を組織した。研究動機の重要性やアロマセラピーにおける研究について講義を行なった。
6. 在宅患者を支援するクリニック職員へのカラーセラピー勉強会主催	2007年11月7日	クリニック職員を対象にカラーセラピーの勉強会を主催した。色彩が心身に与える影響について講義し、在宅生活を送る外来患者様の生活やクリニック内の色彩環境について意見交換を行った。
7. 研修・事例検討会・勉強会実施	2001年4月から2015年3月	病棟及び訪問看護センターにおいて、研修委員・事例検討委員・感染リンクナース・リスクマネジメント委員として、毎月の研修・事例検討会を実施した。また、必要時に感染管理やリスクマネジメント、ポジショニング等の勉強会を主催した。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 看護学生・医学生の訪問看護臨地実習指導	2011年6月1日から2015年3月31日	5か所の訪問看護センターにおいて、4か所の大学及び2か所の専門学校の臨地実習指導に関わった。
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 日本アロマセラピー学会認定看護師	2010年3月21日	267時間のカリキュラムを修了し、メディカル・ナースアロマセラピスト(MNA)の資格を取得し、述べ約200名の全身アロマトリートメントを実施した。 110時間のカリキュラムを修了し、英国ASIACT認定カラーケアプラクティショナー資格を取得し、述べ約600名のカラーセラピーを実施した。
2. AHCP(現HCJ)認定メディカル・ナースアロマセラピスト	2009年9月30日	
3. 英国ASIACT認定 カラーケアプラクティショナー	2006年2月26日	
4. 保健師	1998年5月15日	
5. 看護師	1998年5月15日	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 大阪府看護協会訪問看護研修ステップ1修了	2010年11月から2012年2月	209時間のカリキュラムを修了した。  外照射を受ける患者がもつ放射線治療に対する認識の変化～放射線・放射線治療に関するオリエンテーション用紙導入前後の比較
2. 大阪大学医学部附属病院キャリア開発センター 緩和ケアコースⅠ・Ⅱ、感染管理コースⅠ修了	2005年10月	
3. ホスピスケア研究会「がんを知って歩む会」ファシリテーター研修修了	2004年8月	
4. 第9回 大阪癌とQOLセミナー 一般演題発表	2004年7月31日	
<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
<b>2 学位論文</b>				
1. 終末期がん患者に対する看護師の感情・行動傾向～死のアウェアネス理論による分析	単	2001年3月	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻修士論文	グラウンデッドセオリーの先駆的研究である「死のアウェアネス理論」を、わが国において質問紙調査により量的に検証した。看護師はまず感情レベルで患者に対応していることや、残された時間を有意義に過ごせるように配慮する行動傾向等が示唆された。
2. 看護婦（士）と看護学生の死生観に関する質問紙調査～死のイメージ・考え・態度による分析	単	1999年3月	大阪大学医学部保健学科看護学専攻学士論文	死は漠然としたマイナスイメージにとらえられ、考え・態度の因子分析では、死生観は、「関心・意味づけ」「宗教的・霊的考え」「恐怖・不安」「行動的態度」などの5因子から構成されていた。看護学生は、看護婦（士）と比し、死をより「疎遠な」「わからない」ととらえ、生に対してはより楽観的と考えられた。
<b>3 学術論文</b>				
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
<b>2. 学会発表</b>				
1. Awareness of Dying of End-stage Cancer Patients in Home and Visiting Nurses' Cognitive Correspondence.	共	2017年3月9日	20th EAFONS (East Asian Forum of Nursing Schoars) .	
2. スイートオレンジによる気分の改善効果	共	2009年10月	日本アロマセラピー学会学術総会	
3. 精油が抗細菌・抗真菌作用を示したと考えられる3症例	共	2009年10月	日本アロマセラピー学会学術総会	
4. 精油使用施術における皮膚障害発生の現状とその頻度についての報告	共	2009年10月	日本アロマセラピー学会学術総会	
5. 真正ラベンダーにより治療した手指粘液嚢腫の5例	共	2009年10月	日本アロマセラピー学会学術総会	
6. 終末期がん患者に対する看護師の感情・行動傾向～死のアウェアネス理論による分析	共	2000年12月	第20回日本看護科学学会学術集会	
7. 看護婦（士）と看護学生の死生観に関する質問紙調査～死のイメージ・考え・態度による分析	共	1999年3月	第12回日本看護研究学会 近畿・北陸／中国・四国地方会	
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 放射線治療における看護～当病棟での看護を中心に	単	2004年4月17日	第27回 ターミナル期がん看護における理論と実践のリンケージ研究会（大阪大学医学部保健学科基礎看護学研究室）	放射線治療看護について、放射線治療の概要、副作用別・疾患別のケアについて説明した。
2. 多発性骨転移がある40歳代男性患者のニーズをみたくケアをめざして	共	2004年12月1日	第31回 ターミナル期がん看護における理論と実践のリンケージ研究会（大阪大学医学部保健学科基礎看護学研究室）	他病棟・他病院の看護師や研究者と共に事例検討を行った。
3. 翻訳）がん患者への臨床第I相試験：参加者の認識.	共	2000年1月	がん看護	原著；Catherine Hutchison:Phase I trials in cancer patients:participant's perceptions.European Journal of Cancer Care 7:15-22,1998
<b>6. 研究費の取得状況</b>				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2016年9月10日	吹田市みんなの健康展 補助
2. 2007年2月から2010年4月	緩和ケア病棟におけるアロマセラピー・カラーセラピーボランティア
3. 2007年2月から2011年12月	NPO法人・レンタルスペース・イベント・訪問にてアロマセラピー・カラーセラピーの実践